

八丈やろごんプロジェクト～八丈島を支える人材を地域とともに育てる～

現状 1

生徒アンケート結果より

『島に戻ってきたい』
生徒
全体の58%

他人任せで受動的

誰かに八丈島を
活性化してほしい
⇒ **当事者意識の欠如**

※やろごんとは八丈言葉で「やろう」という意味

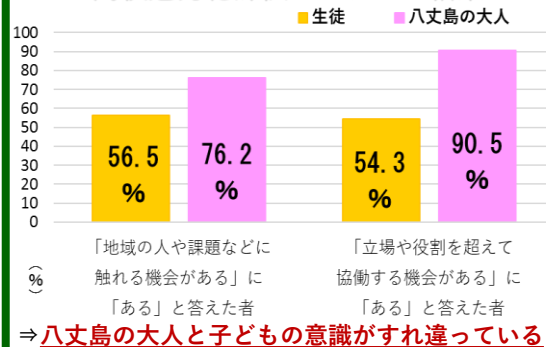
八丈島を支える人材

当事者意識の醸成と地域貢献

- 高校生自身が**当事者**として**八丈島の歴史・文化・産業**を理解
- 八丈島の**価値と課題**を発見、提案し、**地域開発**等の取組を実践

現状 2

高校魅力化評価システムの結果



『テレビ会議システム』を活用
島外コンソーシアム

東京都立大学
URA推進室

産業技術大学院大学

ハワイ大学ヒロ校

島嶼コミュニティ学会

東京都教育委員会

日本エコツーリズム協会
フェノロジーカレンダー研究会

日本政策金融公庫

ワイアケア高等学校（ハワイ）

都立芝商業高等学校

都立第五商業高等学校

1 学年
基礎

学校設定教科・科目

八文学Ⅰ（1単位）

- ・地域の講師による八丈島の基礎学習と『フェノロジーカレンダー』の制作
- ・都内小中高等学校における『島外学習』発表

2 学年
応用

総合的な探究の時間

八文学Ⅱ（1単位）

- ・八丈島の「価値」と「課題」の探究学習
- ・生徒による課題解決策の提案
- ・『八丈全島民会議』における提案の発表

3 学年
発展

総合的な探究の時間

八文学Ⅲ（1単位）

- ・2年次の提案をもとにした、地域開発や起業実践
- ・『観光甲子園』や『マイプロジェクト』等コンテストの応募
- ・八丈島を支える取組の実践

【高校入学前の土台】八丈町立小学校・中学校における取組

『八丈言葉』『職場体験』『お魚教室』『海浜清掃』『環境学習』『八丈太鼓』『ショメ節』等

事業対象学科の生徒（2020年4月1日時点）

学科	1年	2年	3年	計
普通科	40	36	50	126

学校全体の生徒数（2020年4月1日時点）

学科	1年	2年	3年	計	
普通科	40	36	50	126	
併合科	園芸科	5	2	6	13
	家政科	7	2	2	11



島内コンソーシアム

八丈町 東京都八丈支庁

東京都教育庁八丈出張所

八丈島空港ターミナルビル

八丈ビジターセンター

八丈島観光協会 八丈町商工会

東海汽船（株） 南海タイムス

長田商店 ちょんこめ作業所

八丈島乳業（株） 製菓やたけ

リードパークリゾート八丈島（株）

黄八丈織物共同組合

八丈島文化協会 八丈高校PTA

八丈太鼓よされ会

移住定住者促進協議会

※今回の事業対象学科は普通科のみだが、将来的には、併合科を含め全校的な取組とする予定。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要
(令和2年度 新規指定校)

指定期間	ふりがな	とうきょうとりつはちじょうこうとうがっこう					
令和2～最大3年間	① 学校名	東京都立八丈高等学校				②所在都道府県	東京都
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全校生徒 150名 クラス数 ・1・2学年 普通科2 併合科1(園芸・家政) ・3学年 普通科3 併合科1(園芸・家政)	
普通科	40	36	50		126		
⑥研究開発構想名	『八丈やろごんプロジェクト』 ※やろごん…八丈方言で「やろう」という意味。例)「わいらでやろごん！」						
⑦研究開発の概要	『八丈島の未来のための課題とその解決策を考え、実践する人材を育成する』 【島外学習(1年次)】1学期の「八文学」を基盤として、八丈島の価値を見直し、八丈島への理解を深めるために、都内大学の授業参加や職場訪問を行うとともに、都内小中高等学校と交流しながら、作成したフェノロジーカレンダーを発表する。 【全島民会議(2年次)】1年次の「八文学」の基礎を基に、八丈島の再生に関わり、生徒の主権者意識を高めるために、八丈島の未来について全島民で考える場を作る。他県の町づくりシンポジウム等を参考に開催する。 【実践研究(3年次)】卒業後、地域を活性化させ、島内外に八丈島の良さを発信する実践的な力を身に付けるために、実現可能な行動計画を立て実践する。また、観光甲子園やマイプロジェクトなどのコンテストに応募し、具体的な行動計画を発信する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 八丈町を支える人材を地域と共に育てる ① 生徒が「八丈町を支える人材」となり、八丈島に戻ってくる。 ② 生徒が八丈島の特長を知る存在として「よき発信者」となる。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 《現状の分析》【意識調査アンケート・グランドデザインより】 ① 「自己肯定感」が低く、八丈島の知識が圧倒的に不足している。 ② 「当事者意識」が低い。自分の力で課題を見つけ、解決することで八丈島の未来を変えられる、社会に変化を与えられるという実感が必要。 ③ 「大人の意識」と「子供の意識」に大きなずれが生じている。生徒自身は島を大切にしたい気持ちがあるが、大人は現状のまま大丈夫と考える者もいて、生徒自身が島の大人に対して頼りなく思い、希望をもてない現状がある。 《研究開発と仮説》 【1年次・八文学Ⅰ】 ① 自分が住む八丈町について「どのような価値があるのか」を学ぶことで「自己肯定感」を高め、島民としての明確なアイデンティティが確立できるのではないか。 ② フェノロジーカレンダー作成を通して、八丈島について広く学び、島に対する愛着や理解を深めることができるのではないか。 ③ 『島外学習』として八丈島の価値について「島外の人」に知ってもらうことで「島の価値」が相対化され島についての愛着や理解が深まるのではないか。 ④ 探究的な学びを通して、自ら考える力を育み、生きる力を高めることができるのではないか。 ⑤ (島民の改革) 高校生が八丈島について調べたことを、島内にも積極的に発信することで、島民の高校生への理解と意識改革にもつながるのではないか。 【2年次・八文学Ⅱ】 ① 八丈町についての課題を見つけ、探究的な学びを通して解決策を考えることで、					

		<p>社会に対しての「当事者意識」を育むことが期待できるのではないかと。</p> <p>② 八丈島の解決策を考える過程で、八丈島を支えている人々から学ぶことによって、自身が町を支える人材となりうる自覚が生まれるのではないかと。</p> <p>③ 探究的な学びを通して、生徒自身の考える力を育み、生きる力を高めることができるのではないかと。</p> <p>④ (島民の改革)『全島民会議』を通じて、高校生が八丈島の変革に対して真摯に取り組んでいる姿勢を見せることで、島民もまた当事者としての責任を感じるのではないだろうか。</p> <p>【3年次・八文学Ⅲ】</p> <p>① 八丈島にある企業や八丈町役場に対して、具体的な方策を提案し、行動計画を実現することで、自分が社会の一員として関わっていく意識をもつことができるのではないかと。</p> <p>② 各コンテストに自分たちが提案した行動計画を発信し、評価を受けることで、やりがいと社会に関わる意識を育むことができるのではないかと。</p> <p>③ 八丈町の施策に関わり、町を変えることを通して、大きな達成感を味わい、自己肯定感を育むことができるのではないかと。</p> <p>④ 探究的な学びを通して、自ら考える力を育み、生きる力を高めることができるのではないかと。</p> <p>⑤ (島民の改革) 高校生が八丈島の施策を考えることで、島民が高校生に対する理解を深め、新しい発想で八丈島の変革を進めることができるのではないかと。</p>
⑧-2 具体的内容		<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>【1年次八文学Ⅰ】</p> <p>1学期：八丈島の有識者から八丈島の自然、歴史、文化、産業の講義を受ける。</p> <p>2学期：フェノロジーカレンダーを作成し、島民の方へインタビューを行い、八丈島の良さを再発見する。</p> <p>3学期：1年間のまとめと来年度の準備を行う。</p> <p>【2年次八文学Ⅱ】</p> <p>1学期：八丈島の課題解決のため、八丈町が取り組んでいる課題について知り、島の現状を調べる。</p> <p>2学期：島の活性化にむけた行動計画を立案し、八丈島の課題や未来についてすべての島民で話し合う「全島民会議」を開催する。</p> <p>3学期：1年間のまとめと来年度の準備を行う。</p> <p>【3年次八文学Ⅲ】</p> <p>通年：昨年度提案した行動計画を、町や企業と協力して実践する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>【八文学Ⅰ～Ⅲ】</p> <p>① 授業の提案：「探究地域協働等推進委員会」(8名)</p> <p>② 授業の実施：授業担当者4名(全教員でサポート体制を構築)</p> <p>③ (1年次) 島外学習支援：東京都教育委員会(島外訪問学校の選出等)</p> <p>④ (2年次) 全島民会議支援：八丈町企画財政課</p> <p>⑤ (3年次) 地域協働事業支援：八丈町企画財政課・八丈町商工会 等</p> <p>【その他】</p> <p>① コンソーシアム管理・連絡：本校管理職・地域協働学習実施支援員</p> <p>② 事業進捗状況の評価や改善：運営指導委員会、カリキュラム開発専門家による評価・改善指導</p>
⑨その他 特記事項		

※2頁以内(研究開発の実施体制の頁は含まない。)とすること。

【研究開発の実施体制】

管理機関名：東京都教育委員会

1. コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名
東京都教育委員会	藤田 裕司（教育長）
東京都立八丈高等学校	佐藤 俊一（校長）
八丈町	山下 奉也（町長）
八丈町教育委員会	佐藤 誠（教育長）
八丈支庁	増田 憲治（支庁長）
八丈島観光協会	田村 真吾（事務局長）
八丈町商工会	間仁田 聡（会長）
南海タイムス社	苧田義之（社長）
八丈島空港ターミナルビル株式会社	吉田倫久（代表取締役専務）
東海汽船株式会社	山崎潤一（社長）
東京都立大学UR A推進室	柴田 徹（室長）
東京都立八丈高等学校PTA	沖山重彦（会長）

2. カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員の体制

区分	氏名	所属	備考
カリキュラム開発等専門家	増渕 達夫	帝京大学 教授	②
海外交流アドバイザー			
地域協働学習実施支援員	佐治 渉	八丈町 企画財政課職員	③

※「備考」欄には、本事業における活用の形態別に①～③のいずれかの番号を記入すること。

①常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校で常時勤務する者

②非常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校では常時勤務するものでない者

③ボランティア：本事業のために活用されるが、管理機関又は指定校から賃金・謝金等の支払がされない者（①又は②に該当する者を除く。）

3. 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
八丈町教育委員会	教育長職務代理者	茂手木 清
八丈町教育委員会	臨時職員	林 薫
製菓やたけ	社長	大沢 力
長田商店	社長	長田 隆弘

4. 経費

区分	金額（千円）	備考
委託費	千円	
管理機関よる負担	486千円	先進校視察、カリキュラム開発等専門家旅費
その他	千円	

※「その他」の欄を記入した場合には、備考欄に「寄付金」等内容を記入すること。

5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫（※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること）

区分	回答
本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している	
本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している	